

✿単元名『この詩の良さはどうにはあるのか』

「読むこと 文章を読んで考え方を広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもつこと。」

課題①「春に」という詩を、言葉に着目しながら音読しよう。

✿大声を出す必要はありません。自分だけに聞こえるくらいの大きさで、言葉を丁寧に読んでみてください。

課題

課題② 「ああ、このは、この表現は A「詩」というもののよさをよく表しているなあ」というところを探し、例のように「詩」の表現を取り上げて B「どのよさがあるか」という自分の考えを書いてください。

✿できるだけたくさん見つけようと取り組もう。例を参考に自分の考えを数行程度で書いて。

学習のポイントは「普通の文章」と「詩」との違い。これまで学習してきたことを思い出そう。

課題②Aの例

声に出してみると、句読点がなく続けて書かれていくから、リズムがよく、一気に読み上げる感じがでれる。

課題②Bの例

そのことでエネルギーの流れもどこかでつかえないとなく一気に駆け上がり、今にもあふれそうといつ語つ手の気持ちが印象強く伝わってくる。



課題②Aの例

この詩の中に句讀点回も残されている。声に出して読みだしてリズムをよくする働き以外にどんな役割を果たしているのか。

課題②Bの例

この気もちはなんだろう
目に見えないエネルギーの流れが
大地からあしのうらを伝わって
ぼくの腹へ胸へそうしてのどへ
声にならないやがひとなつてこみあげる
この気もやはなんだろう

「この気持ちはなんだか」とこつたあと、「この気持ちはなんか説明しようとするが、なかなか言葉にならない。そして、ふたたび、「この気持ちはなんだか」と問いかける。「これは、誰かに問いかけているようだが、実は自分に問いかけていふんぢやないか。自分に問いかける形で、自分の心に向きてこる。けれども、なかなか答えが出ない。だから何度も問いかけていい。詩の最後もこの言葉で終わっている。無限に答える出ない問い合わせを抱えて若者が成長していく…そんな様子が詩から読み取れる。

この気もちはなんだろう

目に見えないエネルギーの流れが
大地からあしのうらを伝わって
ぼくの腹へ胸へそつしてのどへ
声にならないさけびとなつてこみあげる
この気もちはなんだろう

枝の先のふくらんだ新芽が心をつづく
よろこびだ しかしながらしみでもある
いらだちだ しかもやすらぎがある
あこがれだ そしていかりがかくれている
心のダムにせきとめられ

よどみ渦まきせめぎあい

いまあふれようとする

この気もちはなんだろう

あの空のあの青に手をひたしたい

まだ会つたことのないすべての人と
会つてみたい話してみたい

あしたとあさつてが一度にくるとい
ぼくはもどかしい

地平線のかなたへと歩きづけたい

そのくせこの草の上でじつとしていたい

大声でだれかを呼びたい

そのくせひとりで黙つていたい

この気もちはなんだろう

自己評価をしましょう

この自己評価は皆さん自身が自分の学びを振り返るためのもの・皆さんの理解度や疑問を知るために、先生の評価とは関係ありません。

課題①詩「春に」を、言葉に着目しながら丁寧に音読することができたか。

十分に まずまず 自信はないが できなかった。
できた。満足。 できた。 なんとかできた。

あれば
【一言コメント】

】

課題②詩というもののよさを発見し、できるだけたくさん書き出すことができたか。

十分に まずまず 自信はないが できなかった。
できた。満足。 できた。 なんとかできた。

あれば
【一言コメント】

】

課題③詩から読み取ったことを、声に出して誰かに届けるように読んだか。

十分に まずまず 自信はないが できなかった。
できた。満足。 できた。 なんとかできた。

あれば
【一言コメント】

】

課題④「春に」の魅力を一つ取り上げ、この詩の魅力を他者に伝えるために書けたか。

十分に まずまず 自信はないが できなかった。
できた。満足。 できた。 なんとかできた。

あれば
【一言コメント】

】

✿学習を終えて、分からぬこと、疑問に思うことがあれば書き出しておこう。



字数については特に指定しません。



默読ではなく、声に出したことで引き立つこの詩の良さに気づきたい。



詩の中の表現を取り上げ、そこからどんなことが伝わってくるのかを取り入れて書くこと。



課題③この詩のよさが伝わるように、声に出して誰かに届けるように読もう。



課題④ここまで課題を経て、「春に」という詩の魅力をひとつ取り上げ、改めて、他者に伝えるつもりで書こう。